

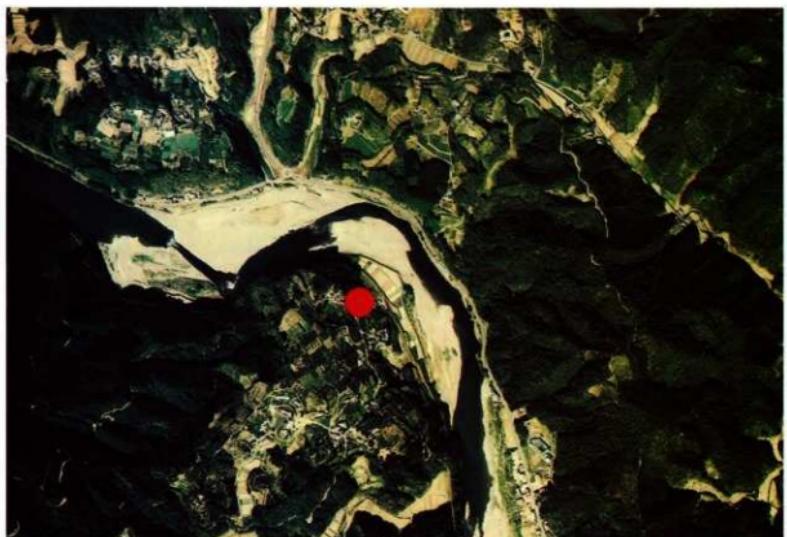
北方町文化財報告書第21集

# 町内遺跡4

平成14年度 町内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財調査概要報告書

2003年3月

宮崎県東臼杵郡北方町教育委員会



上崎遺跡



古城第2遺跡



笠下黒原遺跡

## 序

日頃より埋蔵文化財の保護、活用に関しましては深いご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

北方町では、人口減少と高齢化に対応するために、生産基盤や生活環境の整備が図られていますが、これらの開発事業等の計画に際して、教育委員会では事前に埋蔵文化財調査を行い、その保護につとめております。本書は、その報告書です。

本書の刊行を通して、地域の文化財に対する理解と認識が、ますます深まっていくことを願うとともに、今回の成果が社会教育・学校教育等で広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、事業の推進にあたって調査にご協力をいただきました町民の皆様をはじめ、関係機関の皆様に対しころより感謝申し上げます。

平成15年3月

北方町教育委員会

教育長 中 利幸

# 例　　言

1. 本書は、北方町教育委員会が文化庁、宮崎県教育委員会の補助を受けて実施した町内遺跡発掘調査の報告書である。

2. 本年度は、上崎遺跡、笠下黒原遺跡、古城第2遺跡の発掘調査を実施した。

## 3. 調査の組織

調査の組織は、以下の通りである。

調査主体	北方町教育委員会	教育長	中利幸
調査総括		社会教育課長	亀長馨
事務担当		社会教育課長補佐	藤田統三
調査担当		文化財係長	小野信彦

調査指導　宮崎県文化課

4. 本書の執筆・編集・撮影は、小野が行った。

5. 本書で使用した写真・図面については北方町教育委員会で保管している。

# 目　　次

Iはじめ	1
1. 位置と歴史的環境	1
2. 調査に至る経緯	1
II調査の内容	4
1. 上崎遺跡	4
2. 笠下黒原遺跡	5
3. 古城第2遺跡	6
報告書抄録	7

# I . はじめに

## 1. 位置と歴史的環境

本町は、東九州有数の工業都市として知られている延岡市に隣接しており、町の南部を九州山地に源を発する五ヶ瀬川が流れる。町域面積のほぼ 89%を、山林が占める農林業主体の町である。

遺跡は、旧石器時代では AT 層下位より石核等が出土した矢野原遺跡や半船底型細石核と隆山上に爪形文を施した土器が共伴した出土した岩戸原遺跡がある。

縄文時代早期では速日峰地区遺跡、藏田遺跡等で押型文土器・集石遺構が、前期では笠下下原遺跡で轟 B 式土器・曾畠土器等が、中期では笠下遺跡等で船元式土器が、後期では菅原洞穴で鏃ヶ崎式土器等が、晚期では南久保山小堀町遺跡等で黒色磨研土器が出土している。

弥生時代では昭和 28 年に北方町から板付 II 式土器と思われる土器片が採集されて、宮崎大学に保管されている。後期初頭になると表採品であるが、瀬戸内系土器の移入が見られる。弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけて、速日峰地区遺跡等で堅穴住居跡の検出例が増加している。遺物には、甕・壺・高杯・ミニチュア土器・石庵丁等がある。

古墳時代では後期の箱式石棺が矢野原・駄小屋・後曾木等で発見されている。曾木地区には、昭和 12 年に県指定史跡となった『北方村古墳』がある。

奈良・平安期の遺物が速日峰地区遺跡や南久保山小堀町遺跡等で出土しているが、量的には多くない。中世になると、町内各地には六地蔵や五輪塔等が散見される。中世山城跡として、藤田城や仲畠城がある。笠下遺跡、速日峰地区遺跡等では祭祀遺構が検出され、備前焼のすり鉢や明鏡等が出土している。

近世は延岡藩領となり、内藤氏時代には木炭生産や鉱山開発が盛んに行われ明治新政府へと引き継がれた。

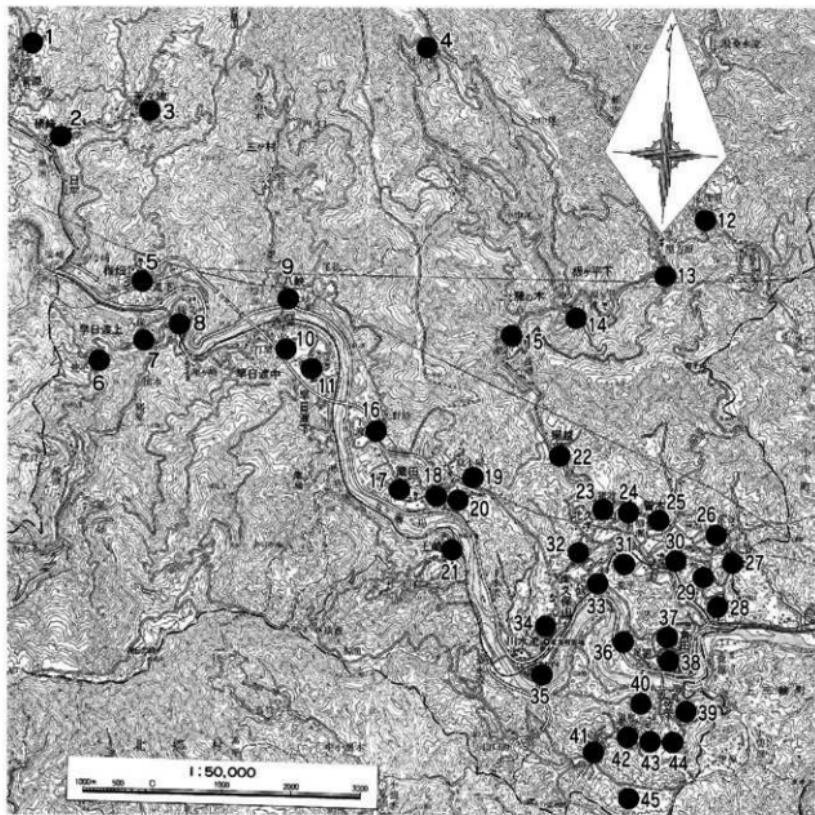
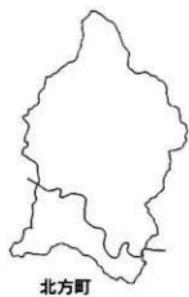
## 2. 調査に至る経緯

本町では、社会情勢の変化とともに過疎化、高齢化が進み、それらに対応するために町内各地で生産基盤・生活環境整備が進められ、小規模ながら各種開発事業が具体化しつつある。

教育委員会では、昭和 63 年度より各種開発事業と埋蔵文化財の保護との調整を図るために事前確認調査等を実施してきた。

本年度は、上崎遺跡、笠下黒原遺跡、古城第 2 遺跡の 3ヶ所の発掘調査を、社会教育関連事業の合間をぬって実施した。

遺跡名	所在地	調査原因	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査期間
上崎遺跡	辰 上崎	林道建設工事	300	平成 14 年 9 月 17 日 ～ 9 月 30 日
笠下黒原遺跡	寅 笠下黒原	町道拡幅工事	50	平成 14 年 11 月 25 日 ～ 12 月 11 日
古城第 2 遺跡	子 古城	畠地造成工事	50	平成 15 年 2 月 18 日 ～ 3 月 28 日



北方町主要遺跡位置図

番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	備 考
1	菅原洞穴	未 菅原	洞穴遺跡	旧石器～中世	昭和 41 年調査
2	横峰遺跡	未 横峰	散布地	縄文～中世	近代鉱山跡
3	美々地遺跡	西 上中尾	散布地	中世～近世	中世山城の可能性
4	上中尾遺跡	西 上中尾	散布地	中世～近世	
5	椎畠六地蔵	未 椎畠	町指定文化財	縄文～近世	多木遺跡（旧名）
6	荒平遺跡	巳 荒平	散布地	縄文～近世	
7	久保遺跡	巳 久保	散布地	縄文～近世	
8	城遺跡	巳 城	中世山城跡	縄文～近世	大部分は削平
9	八峠遺跡	午 八峠	集落跡	弥生～近世	一部消滅
10	打扇遺跡	巳 打扇	集落跡	旧石器～近世	一部保存
11	早日渡遺跡	巳 早日渡	集落跡	旧石器～近世	一部保存
12	樺原遺跡	戌 樺原	散布地	縄文～近世	一部保存
13	屋形原遺跡	戌 屋形原	散布地	縄文～近世	
14	小原遺跡	戌 小原	集落跡	縄文～近世	一部保存
15	藤の木桑水流遺跡	酉 桑水流	集落跡	縄文～近世	一部保存
16	矢野原遺跡	辰 矢野原	集落跡	旧石器～近世	一部保存
17	藏田遺跡	辰 藏田	集落跡	旧石器～近世	一部保存
18	藏田城	辰 藏田	中世山城跡	中世	堀等が良好に残る
19	駄小屋遺跡	辰 駄小屋	散布地	旧石器～近世	
20	殿上遺跡	辰 殿上	散布地・石棺群	旧石器～近世	石棺群は消滅
21	上崎遺跡	辰 上崎	集落跡	旧石器～近世	一部保存
22	獺越遺跡	子 獺越	散布地	縄文～近世	
23	猪渡遺跡	子 猪渡	集落跡	縄文～近世	一部調査
24	仲畑遺跡・仲畑城跡	子 仲畑	散布地・中世山城跡	縄文～近世	堀等が残る
25	曾木遺跡	子 曾木	散布地・石棺群	縄文～近世	県指定北方村 2 号古墳
26	荒谷遺跡	子 荒谷	散布地	縄文～近世	一部調査
27	曾木原遺跡	子 深谷	散布地	旧石器～近世	一部調査
28	黒仁田遺跡	子 黒仁田	散布地	縄文～近世	
29	中野遺跡	子 中野	散布地	縄文～近世	一部調査
30	古城遺跡	子 古城	散布地・中世山城跡	旧石器～近世	一部調査
31	老丁鐘遺跡	子 老丁鐘	石棺群	古墳	県指定北方村 1 号古墳
32	十郎ヶ尾遺跡	子 十郎ヶ尾	散布地	縄文～近世	
33	南久保山小堀町遺跡	子 小堀町	集落跡	旧石器～近世	一部調査
34	東原遺跡	子 東原	散布地	旧石器～近世	一部調査
35	川水流遺跡	子 川水流	集落跡	旧石器～近世	一部調査
36	足鍋遺跡	丑 足鍋	散布地	縄文～近世	
37	権現原遺跡	丑 権現原	散布地	縄文～近世	一部調査
38	角田遺跡	丑 上屋敷外	中世山城跡	中世	地名のみ
39	松尾原遺跡	寅 松尾原	散布地	旧石器～近世	
40	岩土原遺跡	寅 岩土原	散布地	旧石器～近世	
41	笠下山口原遺跡	寅 山口原	散布地	旧石器～近世	一部保存
42	笠下黒原遺跡	寅 黒原	散布地	旧石器～近世	一部保存
43	笠下ノ原遺跡	寅 下タノ原	散布地	旧石器～近世	
44	伊木原遺跡	寅 伊木原	散布地	旧石器～近世	
45	笠下ゴルフ場遺跡	寅 塩田外	集落跡	旧石器～近世	一部保存

## II. 調査の内容

### 1. 上崎遺跡

#### (1) 位置と環境

上崎遺跡は、北方町辰上崎に位置する。遺跡は、北側の五ヶ瀬川に向かっての急な傾斜地上に形成されている。標高は、50m～70mである。上崎地区では、農地保全整備事業に伴う発掘調査が実施中で、縄文時代早期の集石遺構や弥生時代終末期～古墳時代初頭期の竪穴住居跡が検出され、旧石器時代の剥片尖頭器等も出土している。今回、確認調査を行った周辺でも、過去に石鏃や土錐が表採されており、遺跡の存在が予想された。

#### (2) 調査に至る経緯

平成13年度からの継続工事にあたるため、5月に行った事前調整会議で、林政課へ工事に伴う事前確認調査の打診を行った。8月には、現地で拡幅部分の協議を行った結果、工事で影響を受ける部分のみの確認調査を実施することになった。

#### (3) 調査の概要

拡幅される範囲を、トレーンチ法にて確認調査を行った。調査の結果、竪穴住居跡の一部を1軒検出した以外は、遺構を検出できなかった。住居跡を検出した周辺以外は、包含層の残りあまりよくない。これは、斜面部に蜜柑の木の植栽したことが大きく影響しているようである。

住居跡は、調査区外にも広がっている。住居跡部分は、工事を次年度以降に行うことになったため、工事前に連絡をいただく旨の確認をして埋め戻しを行った。竪穴住居跡については、今後の本調査で明らかになるものと思われる。

遺物としては、縄文時代早期の包含層から押型文土器やチャートの剥片が若干出土している。また、搅乱層中より土錐、石皿、石錐、打製石斧片等が出土している。



上崎遺跡トレーンチ内遺物出土状況

## 2. 笠下黒原遺跡

### (1) 位置と環境

笠下黒原遺跡は、北方町寅笠下黒原に位置する。遺跡は、五ヶ瀬川の支流である伍領川に向かって緩やかに傾斜する台地上に形成されている。遺跡から北西へ約200mの所には、昭和50年代に行われた基盤整備事業に伴う立会い調査で完形の壺型土器が出土した笠下黒原遺跡がある。

また、縄文時代中期の船元式土器等が出土した笠下原遺跡がある。標高は、約45mである。

### (2) 調査に至る経緯

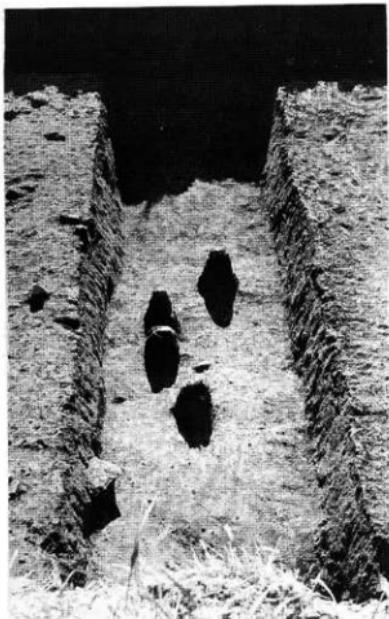
平成13年度からの維続工事にあたるため、5月に行った事前調整会議で、林政課へ工事に伴う事前確認調査の打診を行った。8月には、現地で拡幅部分の協議を行った結果、工事で影響を受ける部分のみの確認調査を実施することになった。

### (3) 調査の概要

調査の結果、縄文時代早期と思われる土坑を2基検出した。一部には、削平を免れた包含層も良好に残っている。周辺には、過去に基盤整備が実施されたものの、アカホヤ火山灰層下の大部分は削平を免れて遺跡が存在するものと思われる。今回の確認調査予定地以外でも、新たな条件下で遺構・遺物が発見される可能性があるため、町土木課及び工事担当者と協議し、次年度以降の工事についても確認調査を行うことで合意した。包含層が確認された部分に関しては、別途、本調査を実施する予定である。



土坑検出状況



遺物出土状況

### 3. 古城第2遺跡

#### (1) 位置と環境

古城第2遺跡は、北方町子古城に位置する。曾木川が大きく蛇行した台地上にあり、旧石器時代の剥片尖頭器や縄文時代早期の集石遺構が検出された慈眼禅寺塗籠遺跡に近接する。昨年度、検出した溝状遺構の続きを調査を行った。

#### (2) 調査に至る経緯

昨年度、土地所有者から土取り中に歯骨が出土したために、連絡を受けて緊急調査を実施した経緯があり、続きを土取りを行う際は事前に教育委員会へ連絡をいただく旨の確認をとっていた。今年度は、平成15年1月に、土地所有者から同地の土取りについての照会があった。現地での協議の結果、取り急ぎ3月までに、土取りを行う部分についての発掘調査を実施することになった。

#### (3) 調査の概要

調査の結果、昨年度の続きを溝状遺構に加えて、古墳時代の竪穴住居跡を検出した。遺構の範囲の広がりと、旧石器時代への確認に手をとられたために、年度中に住居跡の完掘する時間的な余裕がなくなってしたので、外の部分の土取りを行ってもらい、次年度に住居跡部分の発掘調査を実施することになった。

溝状遺構は、今回の調査で端部が確認されたが、歯骨の出土や時代を決定する遺物が出土しなかった。住居跡の周辺を精査するときに、須恵器と弥生土器が、旧石器包含層を確認するときにチャートの剥片が、アカホヤ層底面での遺構の範囲確認調査時に、陶磁器と縄文晚期の土器片を若干検出した。



今年度発掘調査範囲近景

# 報告書抄録

フリガナ	キタカタチヨウナイイセキ						
書名	北方町内遺跡4						
副書名	平成14年度町内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財調査報告書						
卷 次							
シリーズ名	北方町文化財報告書						
シリーズ番号	第21集						
編集者名	小野信彦						
編集機関	北方町教育委員会						
所在地	宮崎県東臼杵郡北方町卯682番地						
発行年月日	平成15年3月31日						
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村	北 緯	東 綏	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
がくぎ 上崎遺跡	東臼杵郡 北方町辰	45426			2002.9.17～ 2002.9.30		林道拡幅工事
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
上崎遺跡	集落跡	弥生時代終末期 ～古墳時代初頭期	竪穴住居跡1軒		石器、石錐 縄文土器 弥生土器 陶磁器	北側の急傾斜地での 竪穴住居址の検出	

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北 緯	東 經	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
		市町村	遺跡番号					
カシタコパル 笠下黒原遺跡	東白杵郡 北方町寅外	45426				2002.11.25～ 2002.12.11		町道拡幅工事
所収遺跡名	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
笠下黒原遺跡	包蔵地	縄文時代		土坑 2 基		若干の土器片・ 石器片		
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北 緯	東 經	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
		市町村	遺跡番号					
カシタコ仁 古城第2遺跡	東白杵郡 北方町子	45426				2003.2.18～ 2003.3.28		個人畠地造成
所収遺跡名	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
古城第2遺跡	集落跡	縄文～中世		竪穴住居跡 1 件 溝状遺構 1 基 土坑 1 基 柱穴若干		縄文土器 弥生土器 須恵器 陶磁器等		

## 北方町内遺跡4

北方町文化財報告書

第21集

平成15年3月31日

発行 北方町教育委員会

〒882-0192

宮崎県東臼杵郡北方町卯682

印刷 クラフト印刷

〒882-0103

宮崎県東臼杵郡北方町子4146